



# 西中だより

平成28年9月号

☎ 553-1434

生徒数 419名

認め合い高め合い支え合う学校で

夢と理想を掲げ、よりよい社会を創造する西中生を育てます！

校長 篠田 豊和

## 「高め合い、支え合う2学期に」

いよいよ2学期がスタートし、始業式では各学年の代表や海外派遣の生徒が素晴らしい発表をしてくれました。暑い中でしたが、全校生徒の聞く姿勢も大変立派な態度でした。さすが西中生です。夏季休業中には、保護者・地域の皆様には何かとお世話になり、またご協力いただきありがとうございました。

さて、この夏はリオオリンピックが開催されました。その熱戦と日本勢の活躍に夢中になり、寝不足になった方も多かったのではないのでしょうか。たくさんのシーンが今も思い出されますが、私はその中でも特に印象に残ったのが、陸上男子400mリレーと体操男子団体です。400mリレーの4選手のうち3選手は個人の100m競走のライバルです。だれが日本人初の9秒台を出すかが話題となっています。しかし、ひとたび日本チームのメンバーとしてメダル獲得という一つの目標に向かったとき、素晴らしいチームワークを発揮しました。日頃ライバルとして切磋琢磨し、互いを尊重し合っているからこそ、あの素晴らしいバトンパスができるのだと感動しました。体操も基本的には個人競技です。しかし、内村選手は団体の金メダルにこだわっていました。チーム全員でそれぞれの種目の得手不得手を補い合い、励まし合う姿はまるで野球やバレーボールのチームのようでした。個人総合で演技している内村選手を見ても個人ではなく、まるでチーム全体で戦っているように感じました。

基本は個人競技だけれども団体で戦うことにも大きな価値があるこれらの競技ですが、学校で学習する生徒たちと共通していることが多いと感じました。中学校卒業後の進路選択はもちろん、学校での様々な学習は基本的には個人の課題です。しかし、学校は集団生活の場、学級、学年、学校、部活動などの集団を形成し、よりよい集団を目指して認め合い、高め合い、支え合うことでチーム力を高めていきます。そしてそのチーム力が個人の力に大きな影響を与えるのです。内村選手もそのチーム力の向上が自分の力を高めてくれているということを良くわかっていたのでしょう。

この2学期は、体育大会、校内音楽会、新人大会等々生徒が個々の力を高め、それを集団の中で生かす場面がたくさんあります。生徒の皆さんの活躍を期待しています。保護者の皆様、地域の皆様、今学期も応援をよろしくお願いいたします。

